

どきどき 変



春が来たかとおもえば、大雪が降ったり、氷点下の気温に
なったりして、冬に後とどろり。とおもえば、陽差しがあれ
ば、ちやうど汗ばむ様子。どきどきが変でははいませんが、
福寿草や雪割一花は、いつもの様に咲くには咲いたが
一向に動かぬ春。四月の節と共にようやく、モシ首を
うやモニキキウも、今つたつ貝かけるようにはなりました。
ギンヤクモソ、ダンツのバイとよやく黄色の花をつけ
はひめまして、寒いぞ、
世界各地で異常気象のニュースが聞かれますが、由縁
あるのでしょうか。そういえば、昔には台風の様な雨や嵐
強風が吹けば、木の枝などもどこかへ飛ばされたりしまつ
のどううか。昔の人ならば、山が恐ろしいとどきどきするの
かしらうか。今なら何と言えはいいの
かしらうか。

どきどきなけしは
この愛しさを知らずはなれた
この親しきは遠くへなれた
この文を衣の裾に
得らぬなれた

この甘い思いも
さびしい思いも知らなれた
かかわることから始ると
かかわったが故に起る
事や不幸も
積み重ねて大きくなり
何億の人でいこうとも
かかわらなけしは路傍の人
私の胸の奥に
紅葉いろも
落しはくれない

塔 和子



元気

毎月何人かの人から、お返事
を頂いたり、励まして下さつた
アムバンスがありがとうございます。
三月のNo.177「絆」の字内達
ころとおもつたどきどき。
実は、破れかけの絆を、こころ
間違ったの絆にしてくれました。
ある人から「気に染まぬ、風を
あつらうに、柳がなれど行きましょ
よとアムバンスを頂戴しました。
ちよつと気持になりました。
三浦綾子さんの「泥流地帯」とい
本に、合戦を合戦、読みました。
その中に、「試練」と受けとめ
立ち上つた時に、苦難の意味
かわかるんじやないでしょうか
という言葉があり、「こころ」とお
もいました。
物言えば口びるてみし、のせ肉
は、クサイ物にはアタレの世界が
腐っていくのじやないですか。
とどか、こころに冬眠のしこま
した。寒くてもよく目覚め
います。私の好きな雪割一花は
咲きはじめ、山野草を愛でる草
づいてます。
志 あり所、必お道通、ど人
言葉も心がなけしは、響きません...